

クラス番号	913	ゼミタイプ	多職種連携型
		担当教員名	奥田 亜由子
テーマ	医療と生活をつなぎ、地域での望む暮らしを実現する利用者本位の支援 医療連携及び多職種連携と協働の実際を学ぶ		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

要援護高齢者になっても地域で暮らし続けるために、医療と介護の連携がますます、必要になってきています。医療機関内での連携と医療機関・病院と地域の専門職、機関との連携をすすめるためには、社会福祉士である相談員の役割が大変重要です。連携の要の相談員としては、MSW、地域包括支援センターの社会福祉士、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー及び行政職員など多くの場所での活躍が社会福祉士に期待されています。

相談援助職のプロである社会福祉士を目指す学生として、「利用者自身が望む地域での暮らし」をどう聴き取り、アセスメントし、実現していくのかをこのゼミではていねいに学んでいきます。さまざまな制度やサービスが存在する環境の中で生活する利用者個々のニーズに応じた相談援助・ケアマネジメントを展開するために、まず、必要な相談援助の基本であるコミュニケーション技術、プレゼンテーション技術を学んでいきます。

医療連携・多職種連携、高齢者福祉、地域包括ケアなどに関する参考文献や資料を検索し、読みこなすことにより、議論できるテーマをもとにレジュメを作成し、プレゼンテーションを実施していきます。各自または、グループでの学習をすすめ、研究方法の基礎を身に付け、調査研究した結果をレポートにまとめ、報告書として提出します。3年時の専門演習につなげられるように自分で学ぶ力を身につけます。

1. 授業計画：お互いを理解できるように、1年次で学んだことも含めて自己紹介、他己紹介をする。図書館セミナーで、文献の検索し、レポート作成に活用できるようにする。
2. 現場体験ボランティア時等を活用し、MSW、相談員、ケアワーカー、ケアマネジャー、地域包括支援センター職員等にインタビュー調査を実施し、専門職の多職種連携・協働の実際を理解する。
3. 自分の祖父母等にライフヒストリー（生活歴）をインタビューし、高齢者の人生や生活の理解を深める。また、質問力、傾聴力を高める。利用者を理解するためのコミュニケーション技術を学び、実践する。ロールプレイを実施する。特に、健康面、病歴などを聴き取り、疾病の知識や治療方針、生活上の留意点等も理解できるように調べていく。
4. フィールド実践では、医療機関や福祉施設などに出向き、医療連携多職種連携の場面の体験及び話を聞く機会を持つ。ゼミでの学外活動として医療機関及び高齢者施設等に視察に行くことを必須とする。
5. 上記のフィールド実践の報告書を作成し、プレゼンテーションする。

担当教員からのメッセージ



MSW や相談員になりたい人、高齢者、障害者、要援護者の支援に関心がある人、まだ将来は定まっていなくても、人を支援する仕事に就きたいと思っている人、一緒に基礎的な力を身に付けましょう。自分の将来に向けて、いろんな事柄に問題意識を持ち、自ら調べる姿勢を身に付けましょう。基本的な学ぶ姿勢を持ち、ゼミを休まないこと、なお学外活動のフィールドワークは必須とします。

それぞれが役割を決め、自分たちで取り組みたいことやクラスでの交流、ゼミの時間以外の学外の活動なども計画し、楽しい一年にしましょう。